

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

桐のビア杯に込められた未来への願い

東 福太郎 和歌山／伝統工芸士

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催：LEXUS)は、日本各地で地域の独自性や伝統技術を生かし、新しいモノづくりに挑む「匠」を応援する。

「匠」のモノづくりに挑む「匠」を応援 レクサスが日本全国の

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」などの多くのヒット番組を手がけ、またくまモンの生みの親でもある小山薫堂氏をプロジェクトのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏(建築家・東京大学教授)、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト)・アート・プロデューサー(下川一哉氏)意匠と匠研究所(らをサポートメンバー)に発足。昨年度は、52名の匠によるプロダクトが誕生。若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への採用や、ロックフェリー家主催のチャリティイベントへ出品されるなど注目を集め、匠自身もTVやwebメディアへの掲載など目覚ましい活躍を見せている。



東さんの展示ブース

1月17日に都内で行われた商談会では、百貨店・セレクトショップバイヤー・メディア・デザイン関係者などに向けて半年間をかけて製作した自身のプロダクトをプレゼンテーション。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなる大きなチャンスを手にした。また、商談会の終盤ではビームスジャパンとのコラボレーション企画「LIFE with NEW TAKUMI」新しい匠、新しい暮らしが発表されるなど、プロジェクトも進化している。



バイヤーたちにプロダクトを紹介



1月17日、プレゼンテーションにて



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科卒。「料理の鉄人」や「ニューデザインパラダイス」、映画「おくりびと」など数多くのヒット作品の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



自作とともに

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。和歌山県選出の匠(伝統工芸士の東福太郎さんのモノづくりへかける思い)と完成した作品を紹介する。

モノ売りから コト売りへ

桐たんす業界の低迷を、東さんは憂いていた。職人が心血を注いで生み出す製品が、なかなか人に知られず評価もされない。そんな現状をどうすれば変えられるのか。材木商の家に生まれ育ち、木の魅力を広く伝えること、地元で根ざした木工の技を受け継いでいくことが自らの使命と考える彼の中で、その思いが日に日に強くなっていた。桐の生活雑貨の製作を思い立ったのは、そんな自問自答の日々のことだ。

「たとえばモノの背景にあるストーリーを知ると誰かにそれを話したくなる。そのストーリー込みでモノが欲しくなる。そういうことであるでしょう。だから作る側にもモノ売りからコト売りへの発想の転換が必要やと思っただけです。古来中国で、桐は神聖な木と考えられてきた。伝説の鳥・鳳凰が羽を休めるのが



その軽さに誰もが驚く

小山薫堂氏が彼を選んだ理由

「鳳凰」には、その前身ともいえるプロダクトがある。昨年、クラウドファンディングサイトで話題となり、またたく間に完売御礼となった「桐の器シリーズだ。」「鳳凰」より一回り小さいロックグラスほどのサイズで、「起き上がりこぼし」のように倒れてもすぐに自立する絶妙なバランスも魅力の一つだ。モダンな器を桐の木でつくるアイデアとセンス。それを表現する高い技術。小山氏は、この頃から東さんの存在に注目していたという。

1月に行われた最終プレゼンテーション、サポートメンバーが自身の「注目の匠」を発表する中、小山氏が選んだのは東さんだった。「決して彼がダンナリだったわけじゃありません。ただ彼のプースを見ていたら、僕も桐たんすが欲しくなりました。それは



エリア・コンサルティングにて



完成プロダクト 「桐のビア杯 鳳凰」

桐の枝であり、その飛来するところには幸福が訪れるという言い伝えがあるからだ。東さんのプロダクト「桐のビア杯 鳳凰」にも、それを使う人の幸福を願う気持ち込められている。

1本の木材から刃物ひとつで生み出す「鳳凰」は、地の厚さわずか数ミリ。一つひとつ個性の違い

彼が本当に伝えたいと思った思いが僕に届いたというところで、このプロジェクトから生まれたプロダクトとして非常に「正しい」と感じました。そこが素晴らしい。

最高の形でプロジェクトを終えた東さんだが、「今日はゴールじゃなくスタート、まだ種をまいただけだ」と浮かれる様子はない。彼のまいた「種」の一つが、今回参加した匠全員による共同プロジェクトをスタートさせるというプランだ。自分の出番直前まで各プースをまわってその話をしていたので、「プレゼンはぶっつけ本番でした」という。分野は違えど高い技術を持った尊敬すべき匠たちとの縁を、今日限りで終わらせてしまおうのはあまりに惜しい。そう語る彼と仲

間たちが、近い将来新たなムーブメントを起こすのを楽しみに待ちたい。「あとは桐たんすがバンバン売ってくれたらええんです。それが最高です(笑)」。明るく前向き

う木材を360度均等に切り出す技術は、一般の人が思うよりはるかに高度だ。木材の選定と刃物の調整に一念に時間をかけ、あとは手の感覚だけを頼りに一気に切り出していく。

「見た目の印象よりはるかに軽いから、手に取るとみなさん驚くんです。さうやって驚いてくれたらいいんですけど。軽いでしょ、軽いは桐の木だからですよ、桐には鳳凰のこんな伝説があります……」って説明するんです。一つでもネタ覚えて帰って欲しいから、捕まえたらいかにしゃべります(笑)。すっかりコト売りが板についた顔で、東さんが笑った。

に、持ち前のアイデアと探究心で、桐たんす業界の未来のために努力を続ける東さん。彼がその情熱を失わない限り、その行く道に、鳳凰はいずれ舞い降りるだろう。



東さんの作業風景



東 福太郎
和歌山／伝統工芸士

1981年和歌山県の桐の材木屋に生まれる。京の名工、内藤邦雄・内藤政一に師事、京指物を学ぶ。卒業後は家業を継ぎ桐たんす職人として働く傍ら、材木業の知識と技術を生かし和歌山県指定文化財・名手八幡神社の内装工事などを手がける。現在、桐の雑貨ブランドActive Zoneシリーズの商品開発中。

LEXUS
NEW
TAKUMI
PROJECT